



巻頭言

リハビリテーション科 診療科長/ 真野 英寿

新しいリハビリテーションの話 — 「動かないと筋力が低下するメカニズム」が解明されました —

リハビリテーション医学は新しい医学です。新しい発見がいくつもあります。時代とともに変わっていく医学です。

筋肉は動かさないと減少することが知られていますが、そのメカニズムはわかっていませんでした。2023年に神戸大学小川渉先生のグループが解明しました。「筋肉を動かさないと筋肉内のカルシウム濃度が低下し、筋肉が減少する原因になる」「カルシウム濃度の低下にはPiero1、KLF15、IL-6の3つのタンパクが順番に働くことが関与している」「これは運動による筋肉の刺激とは関係していない」

この3つのタンパクを抑制することで筋肉の減少を予防できることが証明されました。KLF15の遺伝子を破壊したマウスはギプス固定しても筋力が減少しません。「冬眠するクマはなぜ寝たきりにならないのか？」その謎がようやくわかったのです。



アルツハイマー病の遺伝子は21番目の染色体にあることが知られています。21番染色体が3本あるダウン症候は1.5倍認知症になりやすいのでしょうか？ダウン症候が成人後に急激に老化する「退行」は、現在はあまり話題になりません。骨格筋から放出されるホルモン（マイオカイン）が高次脳機能を改善することが知られています。退行が減ったのは社会が変わりダウン症候が屋外に出て活躍する機会が増えたからではないかと考えています。

ボツリヌス治療にも新しい知見が見つかっています。ボツリヌス治療は筋肉を萎縮させるリスクがありますが、アルゴリズムに沿って治療を行うと脳性まひ児の身体能力が改善するだけでなく生涯を通して維持できることがわかってきました。生物兵器に應用される恐ろしいボツリヌス菌はヒトの進化と深く関わっていた可能性があります。樹の上で生活していた我々の祖先が地上に降り土の上を歩くようになる過程で、何らかの関係を持ち共に進化してきたのではないかと考えます。ワクワクするような話です。

リハビリテーション病院に通院している脳性まひのJくんは喉頭を摘出され話すことができません。詩人でもあり東京藝術大学の学生ボランティアの協力を得て詩集を出版しました。「イタリアには特別支援学校がない、それを実際に見てみたい」と綴っていました。このたびクラウドファンディングで費用を集めイタリアへの視察旅行が決まりました。どんなメッセージを世の中に発信するのでしょうか。楽しみです。

リハビリテーション医学の始まりは東欧の物理医学（physical medicine）です。そしてリハビリテーション医学は「有事の医学」です。戦争とともに発展してきました。まさにその時期なのかもしれません。兵士のリハビリテーションのゴールは再び戦地に向かうことではなく、新しい社会を作ることです。



第120号のトピックス

- 巻頭言（リハビリテーション科）
- 臨床検査室紹介
- 新生児蘇生法講習会を開催しました
- ご意見・ご要望
- 開院10周年を迎えました
- 編集後記

2024年1月に部署責任者となりました、臨床検査技師の佐藤千秋と申します。2023年10月に昭和大学病院からの異動で半年がたちました。よろしくお願いいたします。

臨床検査室は、これまでの「臨床病理検査室」から「臨床検査室」へ4月から名称変更となりました。病気の診断・診療には欠かせない「臨床検査」を主業務としており、臨床検査技師の主な仕事場です。臨床検査は、検体検査（血液、尿など）と生体検査（心電図検査や超音波検査など）の2つに大きく分かります。



検体検査は院内と病院のそばにある大きな検査室、いわゆる「門前ラボ」で行っています。患者さんから採取した検体中の酵素や電解質などの生化学検査、感染症やホルモンなどの免疫学的検査、その他多くの検査項目を測定しています。

院内では他に、外来患者さんの採血、輸血に係る管理業務や病理検査業務も行っています。採血室では安心・安全に採血を受けていただけるように技術と接遇の向上に努めております。輸血業務は、安全な輸血を実施するために必要な検査や、緊急輸血にも対応できるように血液製剤の在庫管理などを行っています。

病理検査は、組織診と細胞診の2種類があり、組織診は手術や針などで採取した組織、あるいはその迅速検査などです。細胞診は腹水、尿、粘膜をこすり取った細胞や針を刺して採取した細胞を顕微鏡でがん細胞のような異常細胞がないか観察します。当検査室では4名の細胞検査士が担当し病理診断科医師と協働しています。

生体検査は、生理検査と超音波検査に分かれます。生理検査は心電図検査をはじめ血圧脈波検査（ABI）、呼吸機能検査、脳波・筋電図検査や聴力検査など多岐にわたります。超音波検査は侵襲性が無く放射線を用いない画像検査であり、心臓、腹部、表在（甲状腺、頸部、乳房など）、血管などの領域に対応しています。



以上の業務に対して国家資格を有する私たち臨床検査技師は、効果的な診療を支援するために迅速で精度の高い検査結果を提供することを常に心掛けております。そのため、検査に使用する機器の管理、点検、精度管理なども重要な役割です。また、専門知識・技術の習得とアップデートのために関連学会が認定する資格の取得と維持に日々取り組んでいます。

新生児蘇生法講習会を開催しました

副院長・周産期センター長 / おおつき かつらみ
大槻 克文

2024年3月8日（金）夜と9日（土）午後、当院9階講堂で、それぞれ「2024年度 第2回新生児蘇生法講習会 Sコース in 豊洲（日本周産期・新生児医学会公認）」と「2024年第1回新生児蘇生法講習会 Aコース in 豊洲（日本周産期・新生児医学会公認）」を開催しました。




当院産婦人科医師、助産師、産婦人科入職予定の医師、昭和大学病院産婦人科医師、昭和大学保健医療学部助産学専攻科の学生（看護師）、他院の産婦人科志望研修医、他院の助産師・看護師など内外総勢30名の方々が参加しました。

赤ちゃん（新生児）は分娩という母体内から体外へと環境がダイナミックに変化する過程を乗り越えて生まれてきます。参加者は、その様な過程の中で苦しくなった新生児を迅速に蘇生するための手技を習得ないしブッシュアップしました。なお、当院ではインストラクター育成にも力を入れており、今回協力いただいたインストラクター4名、アシスタント3名も全て当院職員です。

引き続き、新生児の予後改善に努めてまいります。次回は9月頃の開催を予定しています。



ご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答
<p>CT、MRI、内視鏡検査等に何故スリッパを置かないのですか。スリッパがないのは不快です。又は自宅から持参しますので、案内にスリッパがないことを記して頂けませんか。</p> 	<p>この度は、ご意見をいただきましてありがとうございます。 検査（更衣室など）に際して、スリッパへ履き替えることで歩行中のつまずきやよろめきにより転倒する危険性が高くなります。 そのため、患者さんの安全を考慮して、当院ではスリッパをご用意しておりません。 また持参されたスリッパをご利用いただくこともご遠慮いただいております。 ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：放射線技術部</p>



江東豊洲病院は開院 10 周年を迎えました

昭和大学江東豊洲病院は2024年3月24日に開院10周年を迎えました。



開院時に撮影した写真

当院は区東部地域の医療を担う大学病院として「診療・教育・研究」の役割を果たすべく邁進してまいりました。次の10年も安全・安心な医療を目指しながら、これまで以上に地域に貢献できるよう職員一丸となって取り組んでまいります。「2人主治医制」もさらに推進し、地域の医療機関と協力体制を強化してまいります。引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



開院 10 周年を記念して撮影した写真



編

2024年4月になり新年度の始まりです。当院では、今年度も多くの新入職員と一緒に働き出します。私が所属する消化器センターでも7名（内科5名、外科2名）の医師を専攻医として迎え入れる予定で、大変楽しみにしています。

集

新入職員が、緊張して挨拶や仕事をする姿はとても微笑ましく、20数年前の自分を思い出して苦笑してしまいます。一方、1~2年上の同僚先輩が新入職員に教える姿は成長を感じ頼もしくもあるのですが、いつもより少し格好よく振舞っているのが、これもまた微笑ましい光景です。

後

そのような4月の新しい風を楽しみながら、良い医療を患者さんに提供できるよう、本年度も頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

記



消化器センター のむら のりひろ
野村 憲弘



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
TEL03-6204-6000(代表)
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ

